

新発田市 平成 29 年度 第 6 回定例記者会見

1 日 時 平成 29 年 9 月 1 日（金）午前 11 時～

2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室

3 内 容

- 新発田市観光協会が PR 用ポスターを作製
- 「楡形エリア観光ガイド」が完成
- 「RUN^{ラン}伴^{とも}2017 in 新発田」
- 札の辻広場のイベント「地域たからいち」
- 札の辻広場のイベント「エブリバディストライダー&バイクパフォーマンス&ミニミニ模擬レース体験」
- イクネスしばた子育て・アートワークショップ「家族で育てる幸せの木」
- 「マナビィフェスティバル 2017」
- 札の辻広場のイベント「'17 下越地区動物愛護フェスティバル」
- 「新発田音楽文化協会定期演奏会」
- 「城下町しばたスポーツフェスタ」
- 「水道まつり」
- 「新発田豊年秋祭り」
- 「渦コン×Komachi 婚活サークル in しばた」参加者募集
- 「新発田市美術展覧会(市展)」作品募集受付開始

あいさつ

- 一昨日、新発田まつりが終了しました。雨に始まり、雨で終わるといような形になりました。
- もともと、新発田まつりは「雨まつり」としても有名です。50 年前の「8.28 羽越水害」は、新発田まつりの中日に災害がありました。
- まさに、「雨まつり」と形容されるようなまつりでした。花火が一日順延となり、クライマックスの「帰り台輪」の一斉あおりでは、たいへんな雨になりました。
- それでも、全体的に見れば、市民の皆さんにも楽しんでいただけたまつりになったのではないかと思います。

- また、新庁舎「ヨリネスしばた」がまつりの会場となったことで、グレードアップした、進化したという印象を受けました。
- しかし、まだまだヨリネスしばたが、完全には利用されていないと思っています。パレードや帰り台輪の際に、大通り側を開放していません。
- 「サマーフェスティバル」のときには、一体的に活用していました。そういう意味では、市の職員もヨリネスしばたを使いきれていないようですので、来年に期待を寄せたいと思っています。
- さて、雨と言えば、先日の集中豪雨で被害が発生しました。金山川が決壊し、川東地区の下楠川地内では、道路が陥没するという残念な結果になりました。
- 金山川は早急に復旧できますが、下楠川の道路は、少し時間がかかるようで、当面は通行止めということで、市民の皆さんには難儀をかけることとなります。
- 道路の陥没した場所に自動車落ちて、運転手が胸を打って骨折するという残念な事故もありました。早急に復旧に当たるよう指示したところです。
- さて、北朝鮮によるミサイルの関係では、いろんなところで「J-^{アラート}ARERT」の連携のことが取りざたされているようですが、当市ではきちんと連携が取れ、「緊急告知エフエムラジオ」が作動したと聞いています。
- 当市では、「J-^{アラート}ARERT」と「あんしんメール」が直接つながっていないので、今後これをどうするのか。同じようなメールが2度来るよりも、改めて市民に直接訴えるときに、「あんしんメール」を使ったほうが良いのか、このあたりが検討課題です。
- また、藤塚浜にあるサイレンは、地震・津波へ対応するものですので、今回は鳴りませんでした。海水浴場のアナウンス用のスピーカーは「J-^{アラート}ARERT」と連動しています。
- 海水浴シーズンではないので、海水浴客はいませんでした。きちんと作動したということです。

それでは、会見項目の説明とします。

最初に、観光関係の話題を2つ紹介します。

○1つ目は、観光協会が作製した新発田市のPRポスターです。

○寺町通りを背景に、新発田城をはじめとする歴史遺産と月岡温泉の風景をちりばめた、落ち着いた雰囲気ของ素晴らしいポスターに仕上がりました。

○モデルとして起用されたのは、女優の木竜麻生^{きりゅう まい}さんで、ポスターに書かれた「ただいま」の文字が示すように、新発田市の出身です。

○ポスターは、JRに御協力いただき、夏季限定ですが、新潟支社管内の各駅をはじめ、首都圏の駅にも掲出されたと聞いております。

○また、市内の公共施設には、今年度末まで掲出される予定です。

○ぜひ、大勢の方にご覧いただき、新発田をPRする際の話題として取り上げていただきたいと思います。

○2つ目は、胎内市と共同で発行した冊子「楡形エリア観光ガイド」です。

○これは、豊かな自然や歴史・文化資源がありながら、これまで、まとまって取り上げられる機会が少なかった「楡形山脈」周辺の観光スポットなどを紹介する冊子です。

○本編は3章に分かれており、「地の章」^ちでは、登山やハイキングなどに適したポイントを紹介しています。

○また、「歴の章」^{れき}では、新発田・胎内両市にゆかりの佐々木加地氏^{ささき かじし}と板額御前^{はんがくごぜん}の戦いの歴史などを紹介しています。

○最後の「極の章」^{きわみ}では、観光スポットや入浴施設、レストランなどをマップ形式で紹介しています。

○冊子は1万部発行し、新発田・胎内両市の公共施設や、掲載した観光施設に配布しました。

○ぜひ、大勢の方に手に取っていただき、楡形エリア周辺の散策を楽しんでいただきたいと思います。

○これから、まちづくりの大きな柱になってくるのは、この「楡形山脈」ではないかと思っています。

○「城下町しばた」ということで、新発田藩 400 年の歴史を始まりとすることが多いですが、そこは語り尽くされた面もありますので、これからは、中世の時代、佐々木三郎守綱など、鎌倉時代を一つのまちづくりの柱に持っていきたいと考えています。

○そういう意味でも、時期を得て冊子ができたと思っています。

次に、「^{ラン}とも^{イン}2017 in 新発田」について

○9月18日（祝）、認知症の方やその家族、支援者などがリレーをしながらタスキをつなぎ、日本縦断するプロジェクト「^{ラン}とも^{イン}RUN伴」が、新発田で開催されます。

○今年は、11チーム88人が参加します。参加者は、シンボルであるオレンジ色の「^{ラン}とも^{イン}RUN伴Tシャツ」を着て、ヨリネスしばたの札の辻広場をスタートし、市内各所をリレーして再び札の辻広場へ戻りゴールします。

○当日は、コラボ企画として、様々な主体が運営する市内8つの認知症カフェのスタッフが集まり、出張認知症カフェを開催するほか、札の辻ラウンジでは、クイズなどを通して認知症の基礎的な知識を学ぶ「認知症サポーター養成講座」を行います。

○ぜひ、大勢の方に参加いただき、認知症について考える機会としていただきたいと思います。

次に、札の辻広場でのイベントを2つ紹介します。

○1つ目は、9月9日（土）に開催される「地域たからいち」です。

○これは、当市をはじめとする県内各地の魅力や文化に触れてもらおうと、日本青年会議所の北陸信越地区新潟ブロック協議会が企画したものです。

- 当日は、県内産の食材を使用したオリジナル雑煮鍋をふるまうほか、月岡温泉の出張足湯や県内 15 の魅力的な店舗が出店すると聞いています。
- また、ステージイベントでは、県内各地のご当地ヒーローが登場するなど、札の辻広場に居ながらにして、新潟県全域が感じられるイベントです。ぜひ、大勢の方にお越しいただきたいと思います。
- 2 つ目は、9 月 16 日（土）に行われる、「ストライダー」のイベントです。
- ストライダーは、足で地面を蹴って進む、ペダルのない子ども用の二輪車で、バランス感覚や体幹を鍛えるのに効果的であると言われてしています。
- 当市でも、「アクティブな子育て」をキーワードに、昨年度から進めている「スポーツで子育て」の取組にストライダーを活用しています。
- 当日は、プロライダーの^{ありぞのけいごう}有菌啓剛さんと^{もりかみだいすけ}守上大輔さんが結成した、自転車パフォーマンスユニット「^{ケーアンドディー}K & D」による講習会とパフォーマンスのほか、ストライダーの試乗体験や模擬レース体験が行われます。
- 有菌さん、守上さんともに、バイクトライアルの第一人者で、特に有菌さんは、世界チャンピオンになったこともあって聞いています。
- 札の辻広場で、世界のトップレベルの技術に触れることができるイベントです。ぜひ、大勢の親子に参加いただき、ストライダーを子育てに役立てるきっかけにしていいただきたいと思っています。

次に、家族で楽しめるワークショップを紹介します。

- 9 月 23 日（祝）に、イクネスしばたで、子育てとアートが融合したワークショップ「家族で育てる幸せの木」を開催します。
- これは、大きな木の描かれたキャンパスに、家族で色とりどりの手形を押して花を咲かせ、アート作品「幸せの木」を完成させるものです。
- 漫画家やコミュニケーション技術のインストラクターなど、多方面で活躍している、「^{ぶんぶん}ちやい文々」さんを講師に迎え、午前と午後 2 回のワークショップを予定しています。

○完成した作品は、子どもたちの個性や家族の絆の象徴として、イクネスしばた館内に展示するほか、当日は、家族の手形を押した記念色紙を持ち帰ることができます。

○楽しみながら家族の絆を確かめる良い機会です。ぜひ、大勢の親子に参加していただきたいと思います。

このほかの情報としては、毎年恒例の「マナビィフェスティバル 2017」や「新発田音楽文化協会定期演奏会」があるほか、札の辻広場で開催する「下越地区動物愛護フェスティバル」があります。

また、気軽にスポーツに親しむ機会を提供する「城下町スポーツフェスタ」と、同時開催の「水道まつり」があるほか、秋の訪れを告げる「新発田豊年秋まつり」があります。

さらに、本年度の婚活支援事業の第4弾「婚活サークル in しばた」の参加者募集と、「新発田市美術展覧会」の作品募集があります。

ぜひ、1つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市を盛り上げていただきたいと思います。

定例記者会見質疑応答概要

「J-ARERT」について

新潟日報　もともと、新発田の場合は「J-ARERT」と連動してメールを送る仕組みにはなっていないということだが、対応を検討するとはどういうことか。

市　長　なぜ連動していないかと言えば、同じものが2度行くことになるからである。緊急を要する際に、国から直接メールが入り、その後、市の「あんしんメール」を通してメールが行くことになる。同じようなものに行くことはあまり意味がない。スイッチを切っているも「J-ARERT」と連動する「緊急告知エフエムラジオ」が、障がい者や高齢者のところに配布されている。むしろ、そちらにシフトしていた。ある地域では、結果として連動して機能しなかったという新聞報道があったが、当市がもともと連動していないのは、そういう考え方からである。しかし、どちらが良いのか、もう一度検証だけはするようにと指示した。

新潟日報　「地下に避難してください」というような内容のメールだったが、新発田市にもあまり地下はない。その辺りはどう考えるか。

市　長　ミサイルに関して、市民の皆さんの認知度がどうなのか分からないが、「屋外にいる場合は、屋内に入ってください」、「なるべく窓に近づかないでください」ということが、テレビなどで放送されているので、今回のミサイルの件で、改めて大きな関心を寄せたのではないか。

新潟日報　「緊急告知エフエムラジオ」は、どの程度普及しているのか。

市　長　町内会長など、公的にまちづくりを一緒にやっていただいている方、一人暮らしの高齢者、障がい者などである。また、海岸線の津波の危険性があるところや、新発田市に多い土砂災害警戒区域に隣接する住民に配布している。

新潟日報　携帯電話を持っていない高齢者も多いが、大体カバーできていると考えているか。

市長 私はそう思っている。家の中にいれば、ということである。議会などで、「もっと安価なものがある」と質問を受けることがあるが、やはり、「J-ARERT」と連動して自動でスイッチが入るものであるため、高価にならざるを得ない。

大雨の被害について

新潟日報 下楠川の道路は、まだ復旧の見通しが立っていないということか。

市長 今のところそうである。金山川については、ある程度原因が分かっている。川底が1メートル以上低かったものが、長い年月の間に埋まってしまった。川底は1メートル上がったが、堤防はそのままだったので、簡単に水が越えてしまった。そこは、きちんと改良できる。下楠川の道路は、がらんどろになっていたのではないか。昔の姫田川を暗渠にしていたものだが、それほど水量がある川ではない。長い年月で中が空洞化して、押されたのではないか。上下水道の管が通っているので、そこだけはすぐに復旧するよう指示した。交通には不便をかけているが、生活には不便をかけていない。

市議会 9 月定例会について

新潟日報 議会が始まるが、市長の思いがあれば聞きたい。

市長 通常の補正を含めて、それほど大きな案件はない。決算についても、良好であると監査委員からはお墨付きを頂いている。一番の関心事は、堆肥の問題と中学生の自死案件かもしれないが、まだきちんとした結果を報告できる状況ではないので、質問をいただいたとしても、今までの過程の説明はできるが、私が答弁できる範囲は少ないと思う。

城下町新発田まつりについて

- 北陸工業 新庁舎ができて、初めての新発田まつりだった。設計者のヨコミゾマコト氏が、まつりを想定した設計をされていたと思うが、ヨコミゾ氏や工事関係者は、まつりを見に来ていたのか。市長とは会ったのか。
- 市長 会わなかった。1階から3階まで照明を付けたが、市民の皆さんからの評判は今一つだった。安全性を考慮し、ガラス窓を閉めたために、音が聞こえなかった。見た目だけではあの迫力は伝わらない。このあたりも一工夫が必要である。4階のテラスの手すりも人が押し寄せたときに耐えられるかどうか分からないということで締め切った。安全に楽しんでもらうという点ではよいが、少し慎重になり過ぎではないか。せっかくヨコミゾ氏が意図して設計したことが、生かされていないのは残念である。